

2 自分の特性を知る

1. 題材設定の理由

1学年の「1-7自分を知る」や2学年の「2-8自分の考えをまとめる」では、自分の特性を見つめて、良さを伸ばし、問題な点を直すことに取り組む。同様に、1学年の「1-9進路の計画」や3学年の「3-2進路計画の発表」では、自分の特性に着目しながらも、望ましい社会人としての改善に取り組む。

ここでは、自分の興味・関心・性格から簡単に職業適性のタイプ分けを行う。これによって、自分の特性をつかむと同時に、各職業タイプに求められる特性を見ることもでき、職業の選択も自己の改善も両方行うことができる。

このチェックを、何学年で実施するかによって指導展開も変わってくる。本来は、進路選択の固まっていない1学年のあたりで、自己を見つめる1つの方法として位置づけたい。ただ、これで自分に合う職業が決まったというのではなく、進路の選択に向けて、興味や関心も含めて自己を伸ばしていくことの意欲や姿勢を高めるように活用したい。

2. 指導のねらい

自己の興味・関心や性格をもとに職業について考え、職業の適性と比べながら、今後努力していくことをとらえさせる。

3. 指導計画（全1時間）

本時	・自己の特性を、興味・関心・性格などのチェックを通して見つめさせ、職業の適性を考える中で、自己の改善方向を見つけさせる。
事後	・具体的な努力を確認し、機会をとらえて認め励ます。

<説話例>

毎年、A君からの年賀状を見ると、彼の小学校時代を思い出します。A君は、現在は中学校の社会科の先生をしていますが、小学生の頃は赤面症で苦しみました。授業で指名したりすると、顔が真っ赤になって「ぼ、ぼくは・・・」と、言葉もつまりがちなのです。

ある時、将来の夢について作文を書くことがあり、A君は「先生になりたい」と書きました。それで、先生になるためにはということで、赤面症と言葉のつまりを直すことを一緒に考えました。歌を歌う時は言葉がつまりが出ないということから、話す前に心の中で歌を口ずさ

むようにしました。赤面症はすぐには直りませんでした。今日、毎授業1回発言をめぐってに努力し、言葉のつまりは一ヶ月ほどで直り、そのことで顔が赤くなることも少なくなりました。

今日の学習で分かったように、自分の特性を知り、自分に合う職業を選ぶことも大切なことです。しかし、自分がなりたいと強く願う職業について調べ、その職業に必要な知識や技術を身に付けたり、求められる態度や姿勢にあわせて自分を変えていったりすることもできるのです。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・職業について考えていくために、自分の特性や興味・関心など、自分を見つめることの大切さが分かる。	◎将来つきたい職業を、どのような理由で選んだのか発表する。 ・野球部において、野球のセンスがいいと言われるのでプロ野球の選手になりたい。 ・有名になりたいので、タレントになりたい。 ・政治に関心があり、政治家になりたい。	・自由に発言させて、その職業が本当に自分に合っているかを考えさせることにつなげる。	・関係する題材としては、 1-7、 1-9、 2-8、 3-2などがある。
	課題：現時点の自分の特性を見つめ、どんな職業に向いているのか知ろう。			
中心の活動	・自分の進路に対する願いや希望を実現するために、自分の特性を確かめたり、職業について理解を深めたりすることが分かる。	◎様々な職業には、向く特性・特徴というものがあることを知り、タイプのチェックとレーダーチャートへの記入を行う。 ◎グループの中で交流する。比較的高い点数のタイプに注目し、その職業リストの中から、自分に合う職業を確かめる。	・ホランド博士の分類では、職業を大きく6つに分け、それに合う特性があることを説明してから、チェックを行う。 ・レーダーチャートに記入した点を赤線で結ぶ。 ・レーダーチャートに記入しても、きわだった差が出ない生徒もいる。中でも高いところで、自分のタイプを考えさせる。	・P.62 ・P.63
	・自分の今後の努力の方向が分かる。	◎自分がつきたいと考えていた職業と、今回のチェックから分かった自分に合う職業を発表し、感想を話す。 ・自動車整備士になりたいと思っていたが、Sタイプで対人・サービスタイプということが分かった。もう一度考えたい。	・つきたい職業とタイプが一致する生徒、しない生徒がある。タイプがきわだたない生徒もいる。つきたい職業に合う特性を伸ばしていくこと、再度つきたい職業を見つめ直させることなど、考えさせたい。	
まとめの活動				